

## 第2章 第四次計画期間における成果・課題

### I 第四次計画期間における成果

ここでは、令和元年度から5年度にかけての「第四次長崎県子ども読書活動推進計画」期間における取組状況や成果について示します。

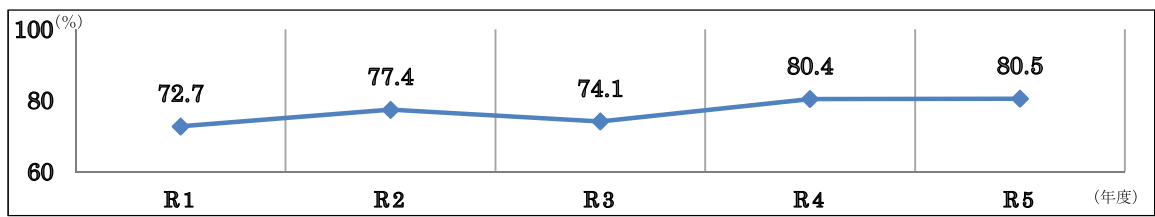
- ◎：第四次計画の主要な取組
- ：第四次計画の取組

#### (1) 家庭における子どもの読書活動の推進について

##### ◎ 「家族10分間読書運動<sup>1</sup>」の推進、広報誌・ホームページ等による家庭読書の啓発

- ・子育て講座や家庭教育研修会、広報誌への掲載などにより、家庭読書の啓発に取り組みました。

<家庭における読み聞かせ(週1回以上)の実施率:幼児(3~5歳)>



「家庭における子ども読書活動の実態調査(県教委)」

##### ○ 家庭読書の啓発

- ・学校を通じて、県内全ての小学1年生に「家庭読書啓発リーフレット」を配布し、子どもと保護者に対して家庭読書の啓発を行いました。
- ・図書ボランティア等研修会やPTA研修会、PTA広報誌等で、家庭での読書習慣形成の重要性を伝え、読書活動への理解促進を図りました。



県生涯学習課 Web サイトに掲載しています。

<sup>1</sup> 家族10分間読書運動:家庭で10分間程度時間を設け、家族が一緒に本を読んだり、読み聞かせをしたりする活動で、ココロねっこ運動の一環として推進している。

## (2) 地域における子どもの読書活動の推進について

### ① 県の取組

#### ◎ 市町教育委員会等関係機関への働きかけ

- ・市町教育委員会に「子ども読書活動推進計画」の策定や「学校図書館図書整備等5か年計画」に基づく適正な図書の整備、新聞の配備、学校司書<sup>2</sup>の配置が実施されるよう働きかけました。

<市町における「子ども読書活動推進計画」の策定率>

年度	R1	R2	R3	R4	R5
策定率 (市町数)	81.0% (17市町)	81.0% (17市町)	85.7% (18市町)	85.7% (18市町)	90.5% (19市町)

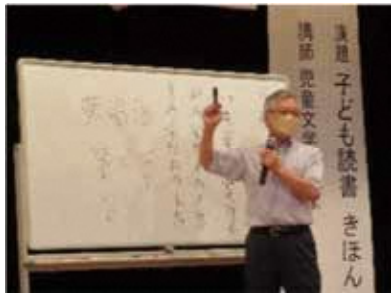
「子ども読書活動推進計画策定状況調査(文部科学省)」

#### ◎ 図書ボランティア<sup>3</sup>等を対象とした研修会の実施

- ・全市町において研修会を実施し、読書活動を推進する人や団体の資質向上や連携を図りました。

<図書ボランティア等を対象とした研修会の実施市町数および参加者数>

年度	R1	R2	R3	R4	R5
実施市町 (参加者数)	5市町 (192名)	2市町 (69名)	3市町 (110名)	6市町 (176名)	5市町 (162名)



**参加者の声**

読み語りの必要性をよく知ることができて良かったです。図書ボランティア活動や自分の子どもとの関わりに今日の学びを活かしたいです。

読書の大切さを再度確認しました。難しく考えず、へたでもいい、気持ちを伝えることが大切だとわかり、しっかり本を読み込んで、好きな本を伝えていきたいです。

**図書ボランティア等研修会**  
(島原市会場)  
児童文学研究家 二羽 史裕 氏に「子ども読書 きほんのき」というテーマについて、お話をいただきました。その後は、参加者同士が情報交換を行いました。

子ども時代に楽しかったことが将来の支えになるとことや、情報交換で得た知識を今後の活動に活かしていきたいです。

<sup>2</sup> 学校司書: 学校図書館の職務に従事する者であり、学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資する役割を担う。

<sup>3</sup> 図書ボランティア: 図書館内の本の貸出、返却、書架整理の補助、掲示物作成、蔵書のデータベース化の補助、読み聞かせ等に携わるボランティア。

○ 図書ボランティア等の取組の把握と情報提供


・各市町で活動している図書ボランティア等のリストを Web サイト等で提供しました。

○ 複数の民間団体が連携して自主的に行う子どもの読書活動に係る研修会等の支援

・子どもの読書活動を推進する複数の団体が連携して実施する研修会等に対して、経費の一部を補助する等の支援を行いました。

<研修会実施回数および参加者数>

年度	R1	R2	R3	R4	R5
実施回数 (参加者数)	5回 (159名)	1回 (14名)	1回 (14名)	1回 (25名)	4回 (99名)



開催日: 令和5年7月23日 参加者: 35名  
 主催: 諫早子どもの本の会  
 連携団体: としょかん広場、  
 諫早学校図書ボランティアネットワーク「心のたね」  
 研修内容: 絵本作家 にしむら かえ 氏 に、「にしむらかえの世界～長崎を愛する絵本作家～」というテーマについて、お話をいただきました。

○ 地域子ども教室<sup>4</sup>、放課後児童クラブ<sup>5</sup>等における読書活動の推進

・地域子ども教室等における読み聞かせなどの読書活動を実施するよう働きかけました。



本の読み聞かせ・紙芝居・手遊び等の活動を行い、「本に親しむことの楽しさ」や「興味を深めること」を感じさせています。  
 (瑞穂町地域子ども教室)

本の読み聞かせ・紙芝居・ペープサート・パネルシアター・手遊び等を取り入れ、子どもたちが楽しく、本に興味を持ってもらえるよう工夫しています。  
 (佐々子土曜学習プログラム)

<sup>4</sup> 地域子ども教室: 放課後や週末などに学校等を活用し、地域住民の参画を得て子どもに学習や体験、交流活動の機会を提供する取組。

<sup>5</sup> 放課後児童クラブ: 保護者が就労などで昼間家庭にいない小学生に対し、放課後等に余裕教室等を利用し生活の場を与えて適切な指導を行い健全な育成を図る場所。

## ② 県立図書館の取組

### ア: 図書資料の整備・充実

#### ○ 児童書及び研究書等、図書資料の積極的な収集

- ・新刊児童書の原則全点購入を実施し、子どもの読書環境の充実を図りました。
- ・利用者や市町立図書館等からのリクエスト購入も実施し、県民の要望や社会のニーズに応じた多種多様な資料の収集を積極的に行いました。

<県立図書館児童書蔵書数>

年度	R1	R2	R3	R4
冊数	137,297 冊	141,365 冊	145,805 冊	150,228 冊

#### ○ 多様なニーズに合わせた資料の収集

- ・外国語図書資料として英語、中国語、韓国語を中心に40以上にわたる言語の絵本等を所蔵しています。また、大活字本<sup>6</sup>、点字図書<sup>7</sup>、LLブック<sup>8</sup>等のバリアフリー資料は、出版されるものについては原則全て購入し、積極的な収集に努めました。

<外国語表記の児童書蔵書数>

年度	R1	R2	R3	R4
冊数	2,546 冊	2,633 冊	2,733 冊	2,960 冊

#### ○ 障害のある子どもの読書活動の支援

- ・障害者用トイレや点字ブロック等の施設面の整備の他、児童向けのアクセシブル<sup>9</sup>な書籍（大活字本、点字図書、LLブック、布絵本<sup>10</sup>等）の充実を図りました。また、リーディングトラッカー<sup>11</sup>やリーディングルーペ<sup>12</sup>、音声拡大読書器<sup>13</sup>等の館内貸出を行い様々なニーズに対応できるようにしました。視聴覚に障害のある方でも楽しめるバリアフリー映画の上映会を定期的を実施しました。

<sup>6</sup> 大活字本: 視力の弱い方や高齢者等、通常の図書を読みにくい方向けに、活字を大きくし行間などを考慮して作成された図書。拡大図書ともいう。

<sup>7</sup> 点字図書: 点字で記述された図書。点訳図書ともいう。

<sup>8</sup> LLブック: 発達障害や知的障害、日本語が得意でない人でも読書が楽しめるように、読みやすい文章、文章の意味をあらわした絵記号（ピクトグラム）、イラストや写真を用いてわかりやすい形で提供されている。

<sup>9</sup> アクセシブル: 利用しやすいさま、近寄りやすいさまをいう。

<sup>10</sup> 布絵本: 布地やフェルト、スナップ、ファスナー、マジックテープ、ボタン等を用いて、はずす、はめる、ひっぱる等の動作を行う、絵本と遊具・教具の役目を兼ね備えた布製の本。

<sup>11</sup> リーディングトラッカー: 視力の衰えや視覚障害、読書が困難な人のための読書補助具であり、読みたい行に視点を集中させることができる。

<sup>12</sup> リーディングルーペ: リーディングトラッカーに拡大鏡機能が付いたもの。1行ごとに拡大して読むことができる。

<sup>13</sup> 音声拡大読書器: 本や新聞を音声で読み上げることができるもの。また、拡大機能もあり、スキャンした本等を大きく表示することもできる。

## 県立長崎図書館(ミライオン図書館) バリアフリー機器の紹介



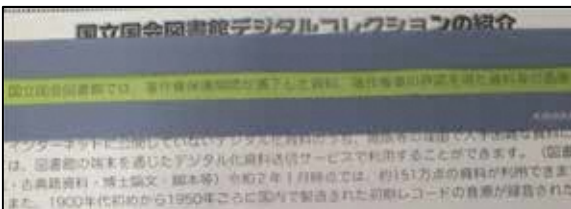
### 拡大読書器

手元に置いた本をモニターに拡大して読むことができます。どなたでも自由にご利用できます。



### 音声拡大読書器

本や新聞などを音声で読み上げることができます。また、拡大機能もあり、スキャンした本などを大きくすることもできます。



### リーディングトラッカー

読みたい行を集中して読み進めることができる、読書をサポートする道具です。色は8色あり、集中して読むことができる色を選ぶことができます。カウンターでお申し出ください。



### デイジー図書再生機器

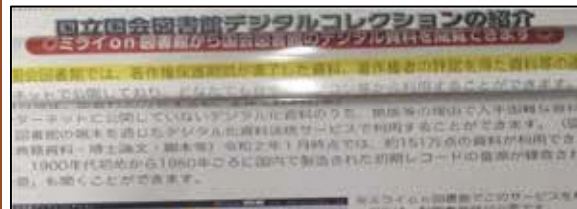
#### (プレクストーク)

デイジー図書の再生をする際に使用する機器です。また、「サピエ」などのオンラインサービスに対応しており、パソコンを使わずに、「サピエ」に所蔵しているデイジー図書を楽しむことができます。



### ルーペ(拡大鏡)、老眼鏡

こどもしつカウンター、3階カウンターなどで貸し出していますのでお申し出ください。



### リーディングルーペ

リーディングトラッカーに拡大鏡機能が付いた道具です。1行ごとに拡大して読むことができます。カウンターでお申し出ください。

## イ:レファレンス及び情報発信等の充実

### ○ 子ども向けコンテンツによる情報発信の充実

- ・Webサイトに子ども向けコンテンツ(「こどもしつへようこそ」)を掲載し、子ども自身で情報を収集できるような取組を行っています。イベントの案内の他、パスファインダー<sup>14</sup>やブックトーク<sup>15</sup>の動画なども掲載しています。若い利用者に向けてSNSでの図書館情報の発信も行っています。

<子ども向けコンテンツ「こどもしつへようこそ」アクセス数>

年度	R1	R2	R3	R4
件数	7,118 件	3,439 件	3,761 件	3,379 件



### ○ 蔵書の検索、相談に応じるレファレンスサービス<sup>16</sup>の充実

- ・電話での蔵書検索やレファレンスをはじめ、Webサイトを通じた蔵書検索、予約、利用状況確認、新着図書案内等を実施しました。ホームページ上にも調べもの相談(レファレンス)申込みのフォームを設け、インターネット上でも対応できるようにしました。

### ○ 「障害者ふれあいブックメールサービス」「読書バリアフリーサービス(視聴覚障害者等サービス)」による支援

- ・身体的障害等のため来館が困難な利用者に対して、郵送による資料の貸出を行い、図書館利用を支援しました。また、令和2年度からは視覚に障害がある方等向けのデイジー図書<sup>17</sup>の貸出サービスを始めました。

<「障害者ふれあいブックメールサービス」貸出数>

年度	R1	R2	R3	R4
貸出冊数	460冊	1,154 冊	964 冊	472 冊

<「読書バリアフリーサービス」デイジー図書貸出数>

年度	R2(※10月~)	R3	R4
貸出冊数	53 冊	206 冊	127 冊

<sup>14</sup>パスファインダー:調べたいことがあるとき、参考となる基本資料や情報源、調べ方を紹介する手引書。

<sup>15</sup>ブックトーク:本への興味が湧くような工夫を凝らしながら、ジャンルの異なる複数の本をテーマに沿って紹介すること。様々なジャンルの本に触れることができる。

<sup>16</sup>レファレンスサービス:図書館利用者が学習・調査・研修を目的として必要な情報・資料を求めた際に、図書館職員が情報や資料を検索・提供・回答することによって助ける業務。

<sup>17</sup>デイジー図書:デイジー(DAISY)とは、Digital Accessible Information Systemの略で、視覚障害などで活字による読書が困難な方向けに作られたデジタル図書の国際標準規格のこと。

## ウ:市町立図書館等との連携

### ○ 県立図書館による市町立図書館等の巡回

- ・協力車に職員が同乗し、業務相談や情報の交換、収集を行いました。また、より連携を深めるため、島原、南島原地区の図書館で情報交換会を実施しました。さらに、巡回の際に収集した各図書館の展示やイベント状況を記録したものを提供し、情報を共有するようにしました。
- ・離島地域については年間2回の訪問を実施しました。五島市立図書館においては新図書館開館に向け、業務に関する支援アドバイスとともに、新入職員の研修として実習の受入も行いました。

#### <協力車巡回数及び内職員同乗数>

年度	R1	R2	R3	R4
巡回数	63回	114回	112回	110回
内職員同乗回数	28回	49回	56回	60回

※R1開館準備等で巡回数が減

#### <離島地域訪問回数>

年度	R1	R2	R3	R4
訪問回数	各地区1回	各地区1回	各地区1回	各地区2回

※R1はミライon図書館開館準備のため、R2~R3はコロナ感染症の影響で1回ずつ実施

### ○ 県立図書館による一括貸出<sup>18</sup>

- ・一定期間、図書館資料を市町立図書館等へ貸し出す一括貸出を実施しました。一括貸出の貸出冊数は、施設の規模等を考慮して館長が定めることとし、貸出期間は3年以内と定めています。

#### <一括貸出数>

年度	R1	R2	R3	R4
年間貸出冊数 (市町数)	2,724冊 (2町)	3,366冊 (1町)	3,312冊 (1町)	2,722冊 (1町)

### ○ 県立図書館による協力貸出

- ・市町立図書館及び県立・市立・私立高等学校及び特別支援学校に対しては、県立図書館から直接、協力貸出を実施しました。テーマを指定してもらえば選書にも対応しています。郷土資料センターでは、学校の授業や調べ学習の教育活動を支援するため、文学・歴史・原爆などのテーマで40冊1組として貸し出す「郷土学習セット」というサービスも始めました。



<sup>18</sup>一括貸出:図書館が団体やグループなどに図書館資料をまとめて貸出をすること。

<市町立図書館への協力貸出数>

年度	R1	R2	R3	R4
貸出冊数	14,654冊	35,660冊	40,928冊	39,147冊

<高等学校等への協力貸出数>



年度	R1	R2	R3	R4
利用校	13校	17校	31校	25校
貸出冊数	1,704冊	3,727冊	3,308冊	4,296冊

○ 県内公共・大学図書館間相互貸借ネットワークサービスの充実

・市町立図書館、大学図書館等とのネットワークを強化するため、相互貸借の際には県立図書館を経由して配送、返送するなど県立図書館が県内図書館同士をつなぐハブ機能の役割を果たしました。

○ 市町立図書館職員の資質向上に向けた資料の提供

・図書館職員向けの実務研修会を年3回実施しました。研修資料はWebサイト上に掲載し常時閲覧できるようにしています。また令和5年度からは、希望する図書館には研修用動画DVDを提供し、各図書館の研修に役立ててもらおうような取組を実施しました。

市町立図書館の取組		
		
<p>お気に入りのぬいぐるみを図書館にお泊りさせる「イベント&amp;おはなし会」を開催。ぬいぐるみのお泊りの様子はアルバムにして子どもにプレゼントしました。 (南島原市原城図書館)</p>	<p>夏休み、家族で好きな本の魅力についてプレゼンテーションを行うビブリオバトル大会を開催。観覧者の投票によってチャンプ本が決まります。 (時津町立時津図書館)</p>	<p>市内全域へ本を届けるため、開館当初から移動図書館<sup>19</sup>車「きらきら号」で離島を含む市内の学校や保育所を巡回し、子どもへの貸出を充実させています。(松浦市立図書館)</p>

<sup>19</sup>移動図書館：図書館から遠方にお住まいの方や障害などにより自ら図書館に来館できない方などのために、地域内に各駐車場を設け、定期的に巡回し、利用できるようにするもの。